



【メコン川でかんぱーい！】



「バナナケットは人口80万人でビエンチャン・バクセよりも。観光資源は恐竜とお寺(タートインハン)だが、メコン川の夕日も町の正面に日が沈み美しい」と先行研究で読んだため、是非見たいと思っていました。デッキスタイルのレストランが並び、昼間の疲れを癒してくれる心地よい風とビールは最高の時間を味わえました。また、対岸がタイというロケーションも他の国にはない感慨深いものとなりました。現地の人と活動されている日本人(佐々木若葉さん)の肌で感じた思いを聞きながら、話は尽きませんでした。決まった事をこなしていくだけでなくちょっと寄り道をしながら作り上げていく今回のツアーの総まとめのようなひと時でした。もしラオス語が話せれば、HOME STAY先の方々とお食事をしながら楽しめたのになあ、と思ったのが残念でしたので、次回はしっかり勉強していきます。まだまだ知られていないラオスという場所柄、良い意味個性的なメンバーが集まったツアーをまとめられるのは大変だったと思いますが、参加者の満足のため、ご尽力頂いた、香岐さん・本村さん・佐々木さん・守野さんのおかげで、充実した旅となりましたことに感謝申し上げます。



バナナ繊維の製品を作る過程です。細かく丁寧な作業に感動しました。繊維を使うようにするまでも力仕事、その後の根気のいる作業でした。「欧米人は寄付で日本人は製品として見る。だから売れる商品にしないとイケない」と仰った言葉が印象的でした。購入したランチョンマットは洗濯していてもしわにならず、色落ちもせず、しっかりしていました。スタッフの皆さんのご苦労と成果に帰国後も感動しました。



ホームステイさせて頂いた村の子供たち。家族の絆が強いのでしょう。私が他の子供の写真を撮っていた時に「うちの子もかわいいよ」とばかり、手を引っ張って行かれました。まだ言葉は喋れない赤ちゃんの目がお兄ちゃんの動きを追いかけていたのが印象的でした。数年後彼らが走り回っている自然が守られるように研究していこうと決意を新たにしました。



ランチを取ったレストランにいた像さん。同じお昼時で楽しそうにバナナをたべているのが印象的でした。食後はお仕事でしょうか？傍に美しい滝もあってランチもおいしかったです。一人旅をしていたスウェーデン人の男性もお気に入りの場所だと教えてくれました。



若葉さんと現地の方のシンが素敵で「はきたいなあ」と思っていました。タートインハンでシンの着用が義務付けられていて、はくことができました。うれしい～